

「村半」開所から2年間(令和2年7月～令和4年6月)の振り返り

1 総括

高山市若者等活動事務所「村半」の開所から2年が経過したが、開所自体、当初の4月から3か月遅らすなど、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらの運営となった。定員を半分とする利用制限や感染拡大時における閉所・時間短縮営業のほか外出自粛など、利用者自らも制約されながらも協力的であり、従来の高山市の公的施設にはなかった特徴や魅力を大いに活かした利用をされたことにより、次第に「村半」の利用頻度も増加し、認知度も高まってきたと考える。その点からは、利用者数といった量的評価は十分とは言えないものの、施設に対する市民の印象など質的な部分において一定の評価をされていると受け止める。

国が重要伝統的建造物群保存地区に選定した「下二之町大新町伝統的建造物群保存地区」に立地する地理的な価値および景観重要建造物「旧村田邸」を活用する建物上の価値に恵まれ存在そのものが魅力である。

加えて、構想～企画～整備～運営の段階を経て下記のソフト面も特徴となっている。

- ① 利用方法を利用者自らが考え楽しめる村半
- ② 利用者自らが考え、提案し、しつらえ、変化する村半
- ③ 地域とともにある、地域のためにある村半
- ④ 新たな出会いを織り成し成長する若者と村半

新型コロナウイルス感染症の影響に限らず、2年の間には順調なことばかりではなかった。例えば、地域の方にとって「どのような人が利用するのか、どのような利用のされ方をするのか」と不安がすべて払拭されたわけではない。また、市民からは本来の姿を厳密に再現したはずが、「壁面の赤系の色合いは町並を相場崩ししている」、「特定の高校のための施設のようにになっている」、「(一部の利用者であるが)利用料がかからないならどんなことにも使いたい」、「インスタグラムなど誰もがネットを使っているわけではない。もっと手に取ってわかる情報発信をしてほしい」といった声も届けられている。今後とも一つ一つの声に丁寧に対応していく必要がある。

2年間での成果は限られるものの、今では1年目に利用していた学生が、高山を離れ「ただいま」と再び村半を訪れてくれる。大学で知り合った友達などを連れ、自ら施設を案内している姿は2年目ならではと言える。また、活用方法も「ミックスジュース(様々な人とのお話し会)」や「ダンスしてみよ～の会」の例のように、村半での出会いがあったからこそ成立した取り組みなどは、新たな展開の兆しと言える。

「村半」はやっと2歳になったばかりである。今後もさまざまなことが予想されるが、人生と同様に多くの人との出会いと手助けによって、利用者にとっても、地域にとっても、「村半」があって良かったと思われるよう、常に利用の状況やあり方を検証しながら、成長していくことが求められる。

2 利用実績

(1) 来所者数

利用者総数 37,238 人（1日平均 64 人）

うち 1 年目（R2.7～R3.6）：19,227 人（1日平均 62 人）

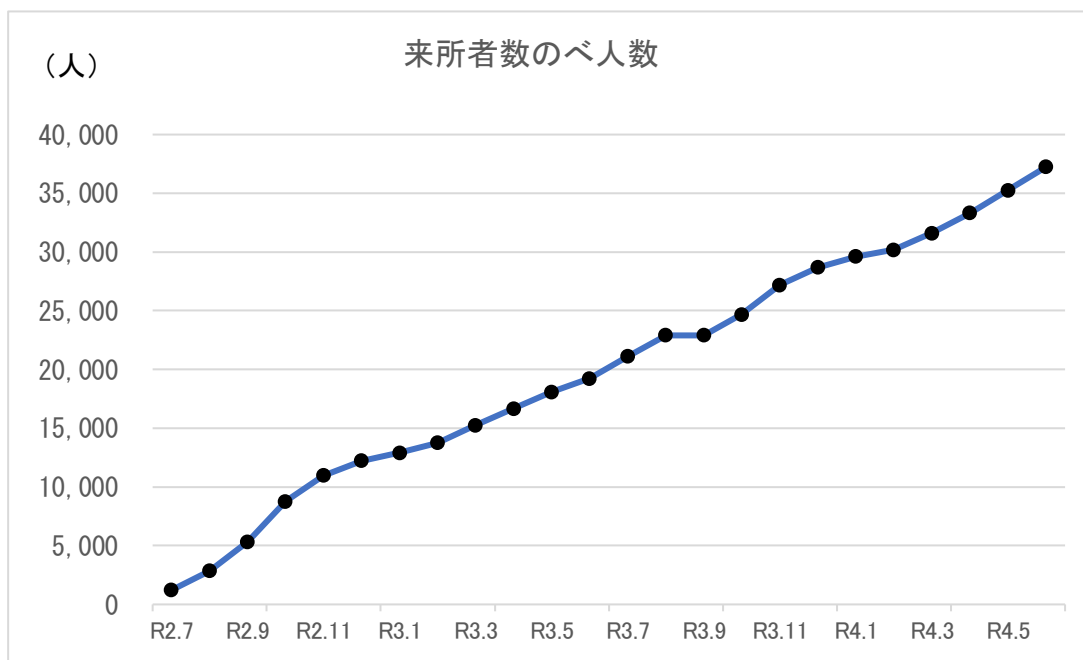
2 年目（R3.7～R4.6）：18,011 人（1日平均 65 人）

1 年目、2 年目ともに、1 日平均 60 人余と大きな差はない。のべ人数では、地方創生推進交付金の実施計画において示した延べ利用者数の目標値 35,000 人（令和 3 年度末）とほぼ同程度となった。（図-1）

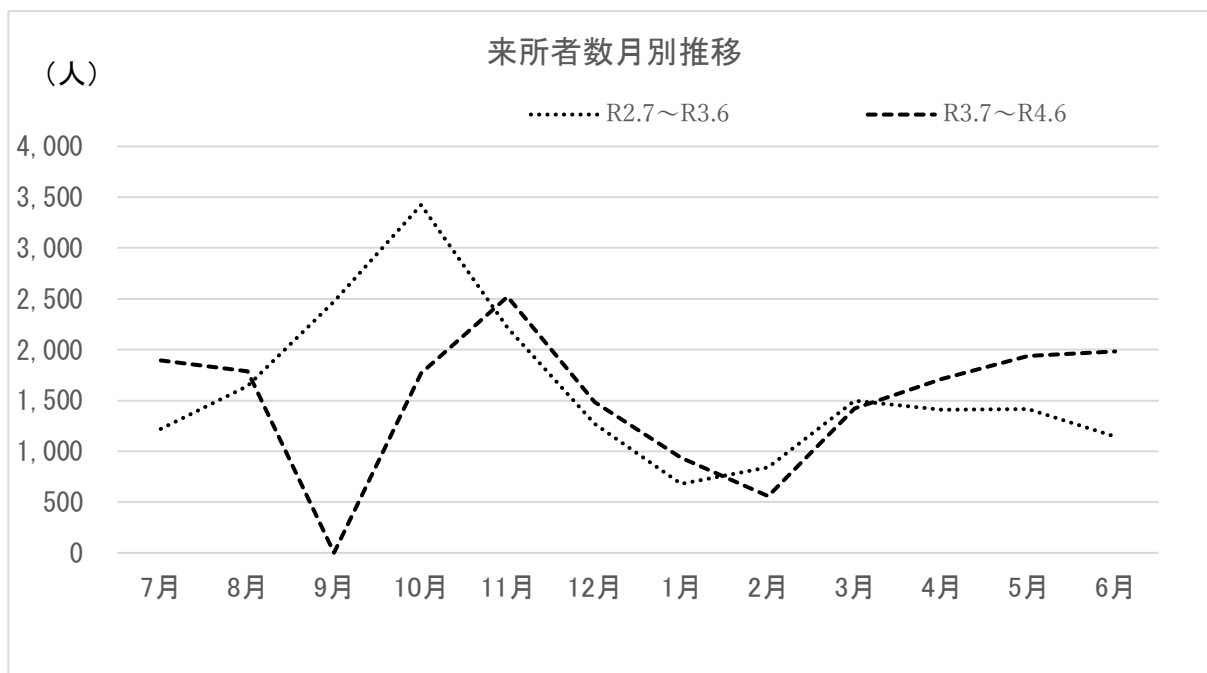
新型コロナウイルス感染症の影響により、閉所や午後 8 時以降の利用制限に加え、現在も各部屋の利用定員を通常の半分に制限していることからすると、目標値との単純比較だけによる評価の判断は難しい。（図-2）

来所者数種別では、利用者登録者した方による利用（共用・占用）と一時的に来所した市民や観光客の利用（見学）の割合はほぼ半々であり、古い町並など観光スポットに近い立地要件による効果がみられる。（図-3）

(図-1)

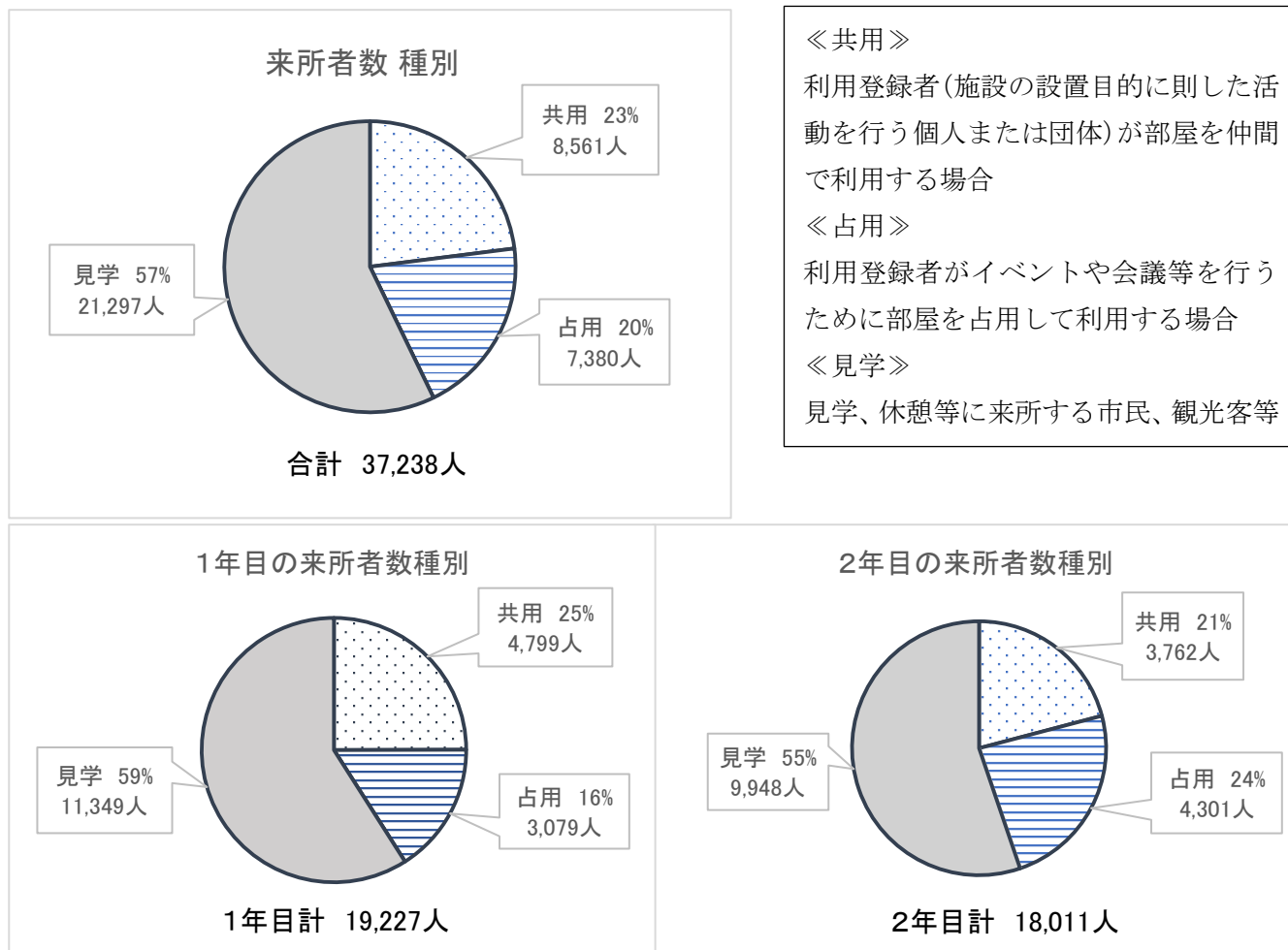


(図-2)



- ※1年目 R3 1/16~3/7 占用受付停止 (緊急事態宣言)
- R3 4/26~6/20 午後8時以降の占用受付停止 (まん延防止等重点措置等)
- ※2年目 R3 8/27~9/30 閉所 (緊急事態宣言)
- R4 1/21~3/6 午後8時以降の占用受付停止 (まん延防止等重点措置等)

(図-3)



(2) 利用登録者数

利用登録者総数 個人：1,006人、団体：166団体

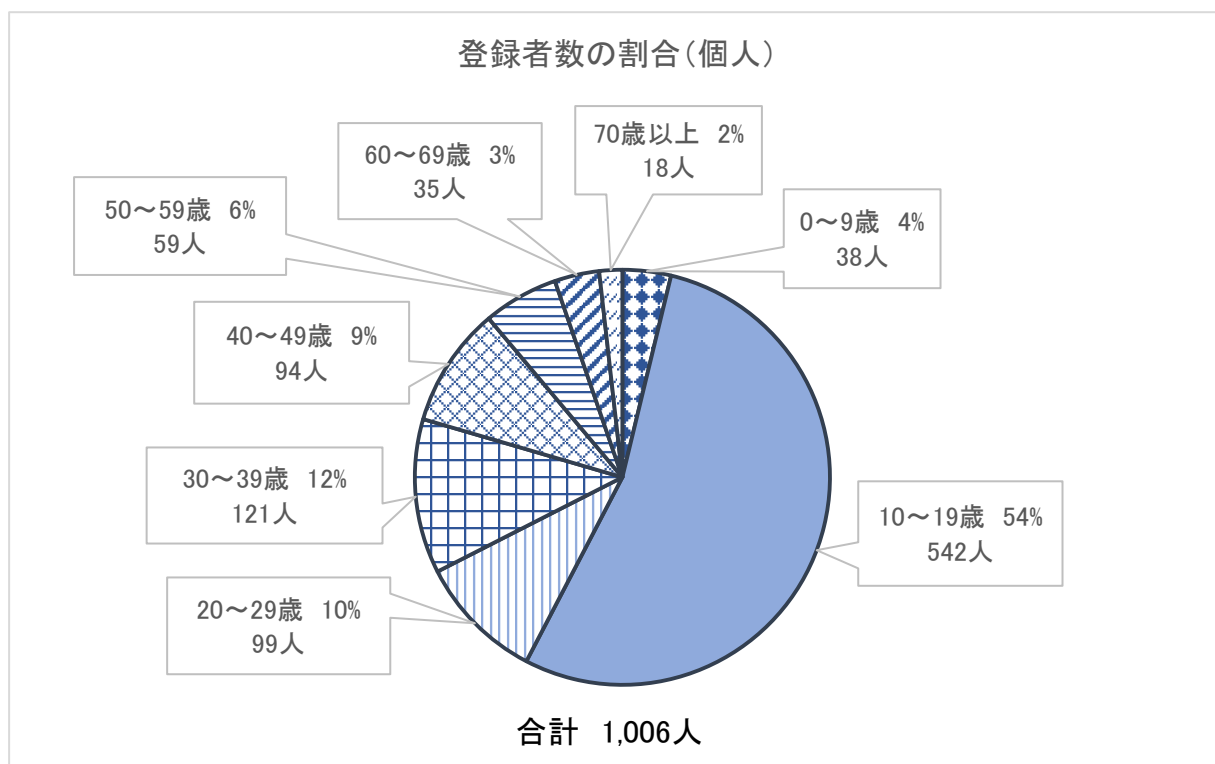
うち1年目：個人 703人、団体 128団体

2年目：個人 303人、団体 38団体

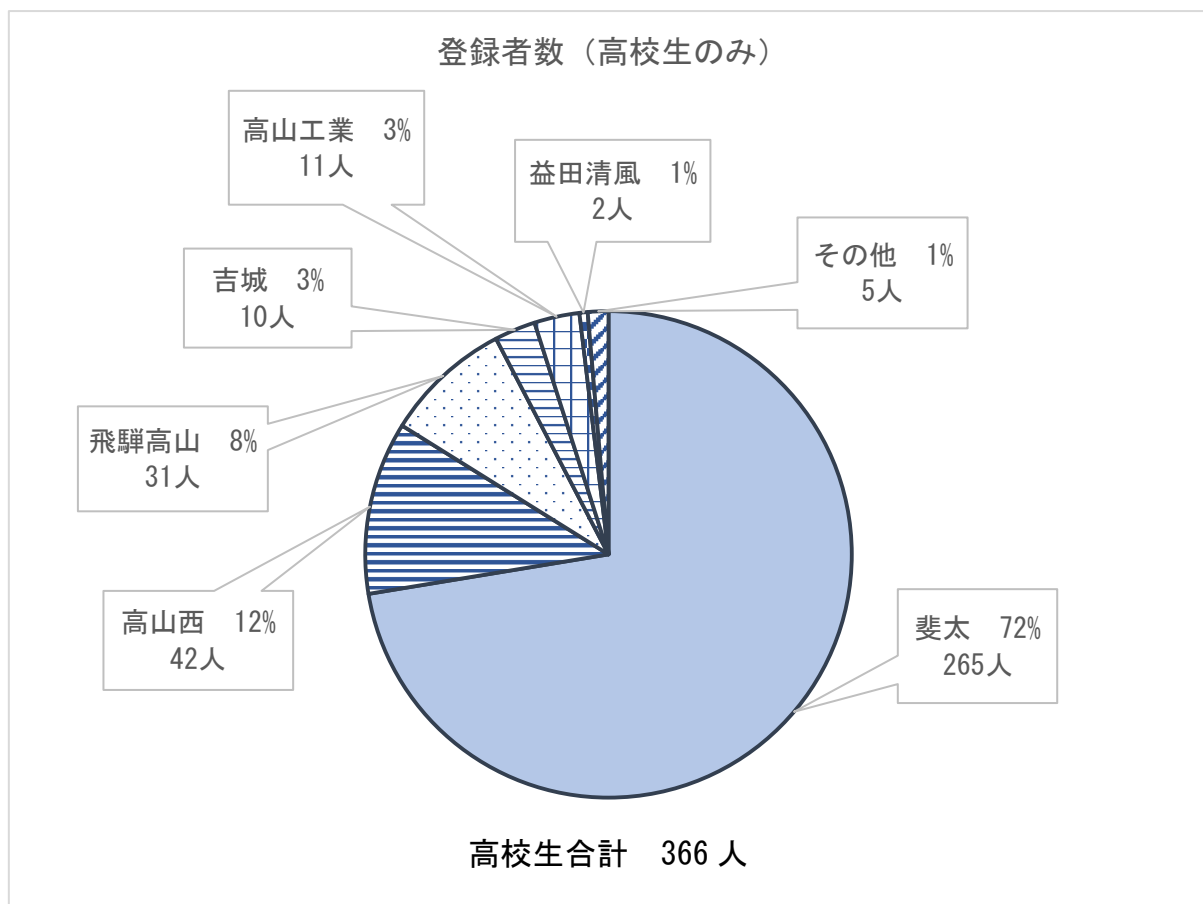
多くの方が利用者登録されているが、更新の必要がないため2年目の登録者数は減少している。年齢別で見ると若者等活動事務所と「若者」を冠していることもあり、30歳未満でほぼ7割を占める。しかしながら、30歳以上が3割程度登録されたことは逆に幅広い年齢層の方々が「村半」に関心を持たれているとも言える。(図-4)

高校生の利用登録者における学校別割合では、斐太高等学校が約7割を占めており圧倒的に多い。施設の立地、距離的利便性の面はあるものの、市民から「他の学校の生徒が利用しにくい」との意見も聴かれることから、特に2年目は他の学校や学生に対してのPRにも努めてきた。他校の生徒による利用はかなり増加しているものの、登録者数の傾向変化にまでは至っていない。(図-5)

(図-4)



(図-5)



3 主な利用内容

- ・学生による自習
- ・高校生等学生団体の活動拠点
- ・学校の地域探究授業や教育旅行の拠点
- ・市民活動団体による会議、発表会
- ・地域団体、商店街団体の打合せや祭りの稽古
- ・木工関係団体等による作品展示会
- ・交流（映画・動画鑑賞、音楽練習、友人との料理、誕生日会）
- ・結婚式、成人式、七五三の記念撮影 など

4 利活用検討会

より適切な施設運営を行うため、関係者による「利活用検討会」を開所前の段階から設置、話し合いを定期的で開催し利用に際しての課題検討や検証を行っており、大変重要な役割を果たしている。（事務局：市企画課）

[構成員] 地域団体／景観町並保存連合会／文化協会／まちづくり組織(NPO 法人まちづくりスポット)／若者活動(飛騨高山ジモト大学)／高等学校(校長会)／飛騨高山大学連携センター／市文化財課／市生涯学習課からの推薦

[検討会] 令和2年度5回／令和3年度5回開催

5 1日の来所者数 TOP 20

(表-1)

	年 月 日 曜日	来所者数	利用内容
1	R2 10 25 日	476	飛騨の家具フェスティバル2日目
2	R2 10 24 土	396	飛騨の家具フェスティバル初日
3	R4 4 3 土	231	勝田萌さん写真展
4	R4 4 2 金	228	勝田萌さん写真展
5	R2 10 28 水	218	飛騨の家具フェスティバル最終日
6	R2 10 4 日	196	高校生のためのIT人材育成セミナー
7	R3 11 1 月	190	日枝中学校1年生見学
	R3 7 25 日	190	鳩峯車組屋台幕虫干し
8	R3 11 17 水	182	飛騨の家具フェスティバル最終日
9	R3 11 14 日	180	飛騨の家具フェスティバル準備 朝日大学の学生による家具フェスティバル動画制作
10	R3 8 18 水	170	飛騨高山フューチャープロジェクト主催イベント「地域お仕事発見隊」 (小学生によるお仕事体験)の動画編集作業
11	R4 1 9 日	169	地元写真家による飛騨地域を撮影した写真展2日目
12	R3 11 10 水	167	大垣北高校見学
13	R2 9 25 金	159	高校テスト期間
14	R3 11 13 日	157	社会福祉協議会主催スタンプラリーイベント「まちなかてくてくマルシェ」
15	R2 9 5 土	156	朝日大学視察等
	R4 5 4 水	156	ゴールデンウィーク 見学者の来所増
16	R2 9 27 日	152	高校テスト期間
17	R2 11 15 日	148	HIDAともにフェス実行委員会主催講演会イベント
18	R3 12 12 日	143	NPO法人すえひろ主催防災パネル展
	R3 8 19 木	143	飛騨高山フューチャープロジェクト主催イベント「地域お仕事発見隊」 (小学生によるお仕事体験)の動画編集作業
	R4 5 20 金	143	飛騨高山スタートアップピッチ事務局主催スタートアップピッチ
19	R2 9 20 日	141	高校テスト期間、見学者の来所増
	R2 9 21 月	141	高校テスト期間
20	R2 10 26 月	138	飛騨の家具フェスティバル3日目

6 情報発信

次の方法により、施設の状況紹介や利用方法の案内及びイベント情報などを発信

(1) 広報たかやま、高山市ホームページ

(2) SNS（令和4年7月1日現在）

（表-2）

	投稿数	フォロワー数等
Instagram	923	1,967
Facebook	186	251
Twitter	438	439
YouTube チャンネル	19	33

(3) 地元情報誌

月刊さるぼぼ、ブレス

(4) 新聞

中日新聞、岐阜新聞 ほか

(5) TV

R2.9.3 ぎふチャン、R2.7.1、R2.11.9～22 ヒットネットTV（ハイ！市役所です）

(6) 観光情報誌

るるぶ R3.2月発刊、まっふる R3.2月発刊

7 受賞歴

・令和2年度（第68回）全建賞（建築部門）受賞

＊建築部門の受賞は全国で7施設のみ

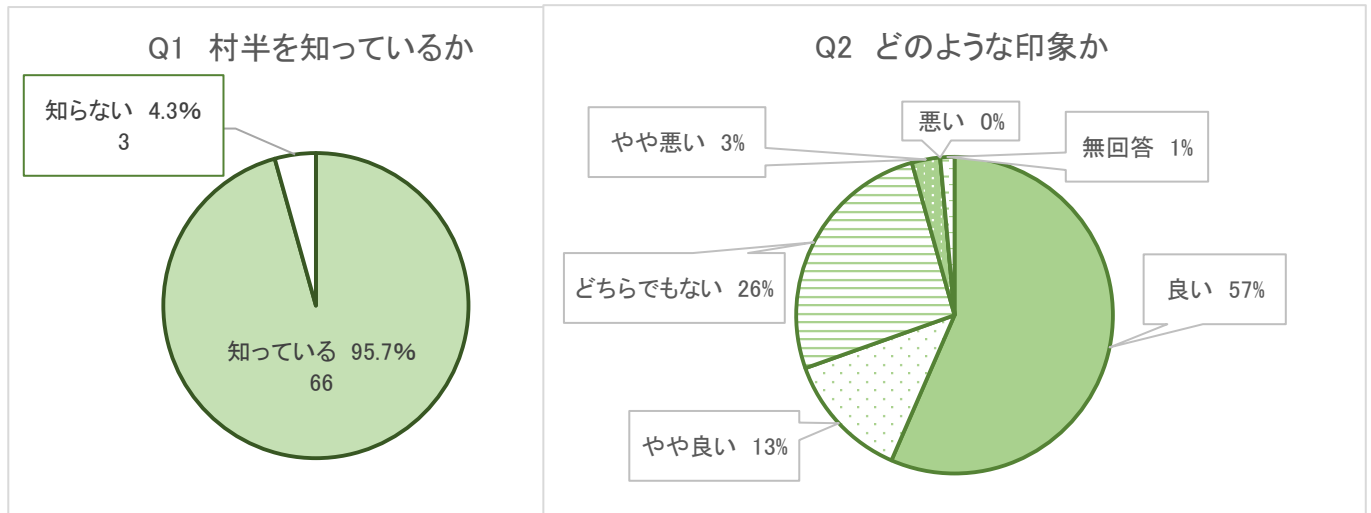
・令和2年度（第21回）中部の未来創造大賞 奨励賞受賞

8 近隣へのアンケート調査結果

村半周辺の世帯（下一之町、下二之町、下三之町 計154世帯）を対象として、令和3年9月に村半に対する意見や要望の調査を実施した。

(1)回答数 69件（45%）

(2)結果（図-6）



《好意的な主な意見》

- ・多くの高校生や若者が利用していて活気が見られる
- ・広さもちょうど良く、費用もかからないのが良い
- ・公民館のない町内のため会議等で利用できるのがありがたい
- ・インターネット、テレビが利用できて便利

《要望・改善依頼にかかる主な意見》

○ハード面

- ・外観が重苦しい、色がもう少し落ち着いた色が良い、赤塗りが少しきつい
- ・送り迎えの車が時々停まっており迷惑である

○ソフト面

- ・年齢制限があるのか、何をするとところなのか、よくわからない
- ・どのように活用されているかわからない
- ・若者＝高校生の「色」が強すぎる

○まちづくりに対する意見

- ・小さな子どもたちも含めた若い世代は勿論、多くの世代や立場の人々がこの「村半」という拠点（場所）がこの地にあることの意義や意味を正しく理解し、その必要性・重要性をしっかりと発信していただきたい
- ・町並みは、まずそこに住んでいる人達の思いを一番に大切にすべき点だと思う。外部の人達が町並みのことを考えるには温度差があり、“住む人ありき”が今後の高山の伝建地区には忘れてはならないことである